

東京八起会旅行・川越と奥秩父

森 俊朗（昭和31年卒）

東京八起会恒例の新春一泊旅行、これまで2月に行なうのが慣例でしたが、寄る年波に勝てず、寒さが身体にこたえると言う人が増えてきたので、今年から5月に実施となりました。

今年は「小江戸川越と新緑の奥秩父」です。

参加者総勢15名で6月21日10時に東京丸ビル前からバスで出発。

小江戸と呼ばれる川越は、江戸の城下町として栄え、蔵造りの街並みは歴史の流れを感じさせる街です。

バスを降りて

「川越まつり会館」や川越のシンボル「時の鐘」を見物し、菓子屋横丁を散策してから喜多院へ廻り、三代将軍家光が江戸城内の客殿・書院などを移築して、

現存する唯一の江戸城遺構となっている家光誕生の間や春日局の化粧の間などを見学してから有名な五百羅漢を見物。笑うの泣くの怒るのあ



川越「時の鐘」

り、中には内緒話するものありで五百三十八体全部を見ても飽きないくらいでした。



五百羅漢

昼食後は、再びバスに乗り、宿泊地の奥秩父・赤谷温泉の小鹿荘に四時過ぎに到着、小鹿荘は百四十年の歴史のある老舗旅館で地元の新緑素材を使った猪鍋などを賞味し、女将から囲炉裏の火起こしの講釈を聞きながら岩魚の骨酒や竹酒を楽しみました。

翌日は、「秩父酒造りの森」で銘酒「秩父錦」の酒蔵を見学してから、いよいよ本命の長瀬ライン下りに挑戦します。荒川上流の親鼻橋から岩畳までの3キロを約30分で下るAコースで、急流が多くスリル満点と聞いていましたが、水量が比較的少なかったので船頭の説明を聞きながらゆっくり周りの景色を楽しむことができました。長瀬の岩畳は天然記念物に指定されており、上から見ると畳を敷きつめたように見えることからこう呼ばれており、地質学的にも貴重な場所とされているそうです。

岩畳で下船して万寿庵でみやげ物を買い込んでから養浩亭で昼食をとったあと帰路につき、

五時前には丸の内に到着し、今年の旅行会は無事終了しました。



長瀬ライン下り

高齢化による認知症を予防するには、回想法という心理療法が有効だと最近わかってきました。参加者がみんな歳のわりに若くて元気なのは、同期会で昔の思い出をあれこれ話しあっていることがボケ防止に効果があるということでしょうか。